

デングウイルス媒介蚊に対する微生物殺虫剤の アジア市場展開の可能性調査

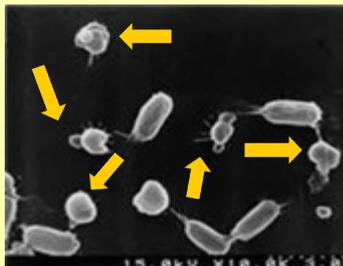
(株)九州メディカル

北九州市「中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業」(2014年度)

東アジア地域において蚊が媒介するデングウイルス感染症(デング熱)が都市部において拡大し社会的問題となっている。当事業では、同社が開発した微生物が産生する殺虫タンパク質を利用した、環境負荷の少ない蚊の幼虫殺虫剤「MOSNON(モスノン)」について、デング熱が問題となっているアジアの国々で市場参入の可能性を調査する。

MOSNON

- ①環境にやさしいボウフラ殺虫剤
- ②殺虫成分は、化学物質ではなく、微生物が作るタンパク質
- ③ボウフラがタンパク質を食べると、数時間で死亡



殺虫タンパク質



殺虫タンパク質入り錠剤(MOSNON)

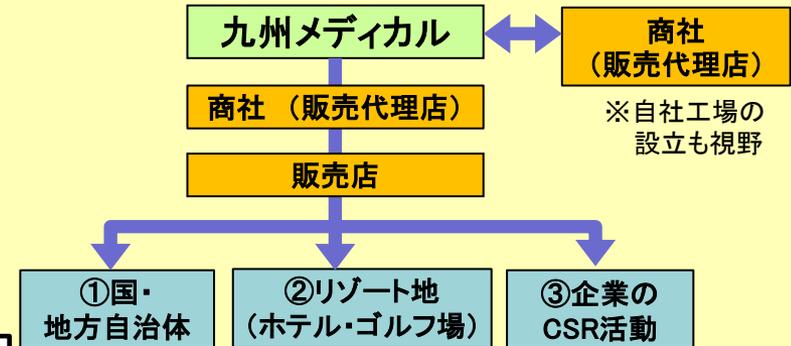


投げ込むだけの簡単使用



誘引物質に群がるボウフラ

【ビジネスモデル】



調査地域

